

令和5年度 岐阜県保健環境研究所評価員会議 評価結果

1 評価員

評価員長 村上 啓雄 一般社団法人ぎふ総合健診センター所長
評価員 原 英彰 岐阜薬科大学学長
評価員 山岡 一清 岐阜医療科学大学・大学院 学長
評価員 四宮 博人 愛媛県立衛生環境研究所長
評価員 杉浦 智彦 岐阜県環境計量証明事業協会技術部会長

2 実施日・場所

日時 令和6年2月29日（木） 9:00～11:30
場所 岐阜県保健環境研究所（ハイブリッド開催）

3 会議の進行内容

開 会 9:00～ 9:05 挨拶、出席者紹介
概要説明 9:05～ 9:35 概要説明
意見交換 9:35～10:25 6を参照
閉 会 10:25～10:30 挨拶
休 憩 10:30～10:40 休憩
見 学 10:40～11:30 所内説明

4 評価資料

令和5年度岐阜県保健環境研究所評価資料参照

5 評価結果

	評価員 A	評価員 B	評価員 C	評価員 D	評価員 E	平 均
研究課題の設定と研究内容	3	4	3	4	4	3.6
技術支援、成果の活用と発信	3	3	4	4	4	3.6
人材の育成	3	4	4	4	4	3.8

点数基準 1 全面的に見直すべきである 2 見直すべき点がある
3 ほぼ適切である 4 優れている
5 非常に優れている

6 評価意見・指摘事項

ここに記載の評価意見・指摘事項は、各評価員の評価書に記載の自由記述意見をまとめたものです。

(1) 研究課題の設定と研究内容

- ・いずれのポイントも適切に運営されていると考えられましたが、県民のニーズを把握するプロセスを明確にして、確かに県民の要望に応えたタイムリーな活動を展開していることをわかりやすく一般公開するように継続努力してください。
- ・「何ができる（行っている）か」、また「何を明らかにしたか」について、ホームページ等も活用して、もっと積極的にアピールする方策を検討していただければと思います。
- ・基本目標・基本方向は、適正です。
- ・コロナ禍の中、求められる課題に集中して行ってこられたプロセスは、適正と判断します。大変な中、この時期を乗り越えて来られたことに敬意を表します。この点に関しては、ノウハウの記録など後世のために記録としてまとめられることを提案します。
- ・県民等のニーズにできているかについては、継続的に積極的にニーズを捉えていく必要があると思います。
- ・多くの項目において、前期と同様な記述であった。
- ・もっともっとコロナ対策（PCR検査を中心に）を実施したアピールがあってもよい。
- ・貴研究所の職員数、試験検査業務が全体の6-7割という特性等を考慮すると、研究課題数や研究内容は優れていると思います。
- ・研究課題は概ね「研究所基本方針」に沿っていると思います。
- ・競争的研究資金の受入や倫理審査委員会も整備され、外部資金の導入が可能となっており、その取得状況も良好です。特に民間の研究助成金の獲得（7題）は、個々の研究職員の積極性を示すものと思います。望むならば、文科省科研の若手研究や基盤研究Cなどの獲得でしょうか。そのためにも、大学等アカデミアとの共同研究の一層の充実が望ましいと思います。
- ・一般的に、研究の成否を決定する最も重要な要因として、研究者の意欲があげられますので、研究の効率や妥当性に加えて、職員が意欲を感じられる課題であることも重要と思います。
- ・基本目標・基本方向にそっており、優れていると考えます。
- ・地域密着研究課題2の「数理モデルを用いた感染症の発生動向手法の確立」については、研究途上かもしれませんが、行政や国研究機関との連携（共同研究者）はどうか、また、開発成果・手法が行政等に実装されたのかが重要であると考えます。
- ・引き続き県民のニーズを把握し、それに応える研究の推進が期待されていると考えます。

(2) 技術支援、成果の活用と発信

- ・コンスタントに社会貢献されるとともに、研究成果発表・発信も継続されており特に問題はありますが、限られた人数の中で、所外での活動に制限が出ることはないように配慮を続けていただきたい。
- ・技術支援の取り組みや技術研修会の受け入れには問題はありますが、ニーズの掘り起こしや積極的なホームページや論文、学会発表などを介した情報発信があればさらに良いと思います。

- ・学術論文、学会発表等の成果の発信状況は、決して十分とは言えない。何らかの対策が必要と思います。
- ・業務の一つに技術支援が含まれているので、当たり前かもしれないが、種々の機関にとってはありがたい事であり、安心である。ここでもコロナ検査の技術支援を記入しても良い。
- ・貴研究所からの技術支援や研修は多方面に活発に実施されています。
- ・新型コロナ対応の業務増大等を考慮すると研究成果の発表は良好と思いますが、査読のある原著論文とそれ以外に分けて評価するのがいいと思います。
- ・県民向けの発信もホームページや機関誌で行われていますが、県民が触れる機会の多いマスコミ等の活用も有効と思います。
- ・指導や研修会などの技術支援の取り組み状況等は優れていると考えます。
- ・相談件数は多ければ優れているということはないのですが、少ないとも感じます。

(3) 人材の育成

- ・個々の研究員の研修について配慮している様子が確認できたが、比較的長期勤続の職員も一定数在籍する中で、キャリアパス、各種資格取得などに配慮した指導体制の維持を期待したい。
- ・風通し良い職員間のコミュニケーションを保つために、コーチングスキルアップやチーム教育体制の質向上に努力されたい。
- ・研究員の派遣先、研修内容については、良いと思います。
- ・研修生、インターンシップの研修内容については、その時のニーズや研究員の希望なども取り入れて進めて頂きたいと思います。
- ・短期研修が多く見られるので、長期（1～6ヶ月）の研修を受け、その後、伝達講習を行って欲しい。
- ・国立保健医療科学院、国立感染症研究所、環境省環境調査研修所など、国が実施している研修に積極的に職員を派遣しており、そのための予算も確保しています。派遣職員数は限られるため、研修を受講した職員が所属先の他の職員に還元することが重要です。
- ・研修生やインターンシップ受け入れも積極的に多数行われています。加えて、出前授業や子供向け普及啓発事業など、職員の専門性を生かした教育的活動にも積極的に取り組んでいます。
- ・一般的な地衛研では、研究経験のない技術系職員が人事異動により配属されることも多いため、さらに高度な研究遂行能力を修得するためには、所内のOJTに加えて、論文博士や社会人大学院の制度により修士・博士の学位を取得するのも一つの方向と思います。
- ・研究員の派遣先、研修内容等については、優れていると考えます。
- ・私が所属する岐阜県環境計量証明事業協会でも、精度管理と技術支援を受けており、技術力等が向上するという成果がありました。

(4) その他

- ・働き方改革方策の完全実施も近いが、人員の確保は何にも優先した課題であり、良好な成果の継続発表を通じて、可能であれば増員も含めて努力していただきたい。
- ・現在もしっかりとした配慮がなされていることは確認できたが、外部資金を含めた研究費の確保、その適正使用を遵守され、コンプライアンス違反が生じないように注力してい

ただきたい。

- ・全体的に、コロナ禍を乗り越えて来られて、県民の期待に十分に答えられてきたと思います。感謝と敬意を表します。

- ・以前からの課題でもありますが、他施設とのさらなる連携強化、研究員のさらなる成果発信、研究員・職員のモチベーションアップなどを引き続き行って頂きたい。マンネリ化しないようにする。

- ・「情報の透明化」を徹底して頂きたい。たとえば、今回の評価の内容を公表してどう対応するかを明らかにする。一般に公表するかは、県との協議の上決定する必要がありますが。常に「県民目線」、「ニーズの把握」に対して、どう対応しているかを明らかにして頂きたい。

- ・今回コロナ禍で培った、経験したことの情報発信とアピールを行う。職員における倫理審査に対する継続的な教育の実施。

- ・会議の中でもお話しさせていただきましたが、コロナ感染時には、県内唯一の検査機関として多忙を極めたことと思います。積極的にアピールしても構わないのでは。研究員の学位取得状況を一覧に記入しても良いのでは。

- ・新型コロナパンデミックへの対応を踏まえ、令和4-5年に地域保健法や関連法が改正され、地衛研の法律上の位置付けが明確にされました。保健所設置自治体では、地衛研の機能を確保するために必要な措置を講ずる責務が規定されました。その結果、試験検査、調査研究、情報収集・解析、研修の4項目は都道府県単位で必ず整備することとされており、県型の地衛研である貴研究所はそれらの整備が求められます。このような国レベルでの大きな変化について、本庁ならびに有識者や県民の皆さまにご理解いただき、貴研究所が一層の機能強化を図られることを期待しております。

- ・基本方向で「①行政需要及び危機管理事案に迅速的確に対応する試験検査の実施。」と掲げられており、まさに地方衛研の本旨を表すものであると考えます。

- ・新型コロナ感染症が発生した際には、全国的にも保健所と並んで地方衛研の在り方についても議論され、保環研において、人的物的資源は十分であったか、また現有の資源で十分な使命を果たすことができたのか総括し、そのうえで、次なる新興感染症が蔓延する事態が起こった際に現状で十分な対応ができるのかを検証する必要があると考えます。

- ・研究のように注目・評価されないものの、岐阜県保健環境研究所が実施している試験検査は、業務量の6～7割を占めており、その結果は県民に役立つものであるものであり、安全安心を支えていると感じています。

7 会議における質問等に対する研究所の説明や対応状況

(意見交換の当所の説明をまとめたものです。)

<研究課題の設定と研究内容について>

- ・倫理体制については、岐阜県保健所等倫理審査委員会があり、対象の研究があれば、審査委員会で審査を受け、承認をいただいた上で研究に着手しています。また、対象になった研究を行う研究者につきましては、岐阜大学の倫理研修を必須ということで受講させています。

- ・研究活動のための時間外勤務については、研究を行う上で、必要があれば、適正な範囲内で認めています。

・県民のニーズを意識した調査研究ということについては、直接的に県民がこうしてほしいということに答える研究もありますし、間接的かもしれませんが、結果的に県民の利益になる調査研究や、今後の取り組みの基礎データにするという研究もありますので、そういうものに取り組んでいくということが、県民を意識したということに繋がると考えています。

・研究者への配慮としましては、個人の負担が極端に大きくなるように、業務の調整をしながら、例えば、研究活動に専念したい時期には、ルーチンワークについて、多少他の職員に割り振りをするなどしながら、調査研究を進めていくということ、そして、1人でやっていくのではなく、チーム体制で研究活動を通じて、技術を伝えていくということに努力をしています。

・学会等の発表についても、当然、予算的なことも踏まえて、本人が希望するものについては、極力出席できるように、出やすい環境を整えるように心がけています。

<技術支援、成果の活用と発信について>

・今回新型コロナウイルスの発生があり、衛生研究所の機能や存在というものが、全国的なニュースとなり、縁の下で職員たちが頑張っていることも、一部報道され、認知度が少しずつ上がったと認識していますけれども、当所自身も積極的に、一層自分たちの仕事について発信していけるよう努力を重ねてまいりたいと思います。

・小中高生の受け入れなどの実績としては、コロナ禍ではなかなかできていませんでしたが、現在は、一般の方向けの所内の見学会の受け入れは可能ですし、子供向けでは、特に夏休みなどに参加いただきやすいような、見学と実習を入れた、食品安全教室を行っています。そちらは、小学生対象になりますので、中学生向けについては、これまでは実績がないですが、要望があれば受け入れできると思います。

<人材の育成について>

・指導体制については、OJT ということで、ベテラン職員と若手職員を組み合わせたチーム体制をとって、それぞれ実務をしながら技術の伝承を図っています。若手には、幅広く、自分の担当以外についても、ベテラン職員について研修を行い、多くの仕事を覚えてもらっています。また、外部の研修の機会が色々提供されていますので、そういったものに積極的に、若手を中心に参加してもらうことも心がけています。また実際の研究活動を通じて、色々な知識や技術の習得に繋がっていくということで、そちらも人材育成の1つの側面と思っていますので、共同研究などを通して外部の研究機関のお力も借りながら、人材を育成に取り組んでいるところです。

<その他>

・全自動 PCR 検査装置コバス 8800 の現状は、新型コロナウイルス以外には、使用していない状況です。今後、他の検査に活用していくのかについては、未定の部分がありますが、今後、コロナウイルスの新型のものが出てきて再燃する可能性もないわけではありませんし、また、コロナ以外のウイルスについても、検査キットが開発、発売をされれば活用できると認識をしています。